

「チェアリング」から見る屋外公共空間利用の実態に関する研究

鈴木ゼミ 17-1-191-0337 鈴木琴音

1. 研究背景及び目的

近年日本各地で、道路や公園、河川といった屋外公共空間の利活用を試みる取り組みが見られる。これまでの屋外公共空間の利用として行政や民間が主催し市民が利用するという活用形式が多いが、個人が積極的に公共空間を利用できているとは言いがたい状況である。その中で「チェアリング」と呼ばれるアクティビティが日本各地で広がりを見せている。本研究では個人が自ら場所選択をし、屋外公共空間を利用する「チェアリング」に着目し、近年の屋外公共空間利用の動向を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

「チェアリング」についての文献調査、アンケート調査を行う。Instagram において#チェアリングのハッシュタグをつけた投稿を抽出し椅子の配置を分析する。また実施者の感想を抽出しチェアリングの意味を考察する。

3. 「チェアリング」について

チェアリングとはアウトドア用の椅子を持って外へ出て、好きな場所において酒を飲む、もしくは好きなように過ごすアクティビティのことをいう。フリーライターのスズキナオと酒場ライター、DJ、漫画家等として活動しているバリッコからなるユニット「酒の穴」により 2016 年に提唱された。Instagram における「#チェアリング」のハッシュタグをつけた投稿の件数は年々増加している (図 1)。これは、三密を避けるための新しいライフスタイルが広まったことが要因になっていると考えられる。

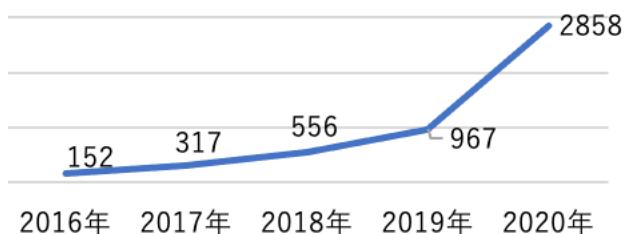


図 1 Instagram の#チェアリングの投稿数の推移

4. 椅子の配置の分析

Instagram で#チェアリングで投稿されているものの中から、2020年1月1日から8月31日まで

の 200 件を抽出した。チェアリングをする際の椅子の配置に着目して分析したところ 7 種類に分類することができた (図 2)。一脚のみが全体の 7 割以上を占めていることから、チェアリングは 1 人で行うことが多いことがわかる。また一脚のみ、二脚平行配置が多いことから、チェアリング実施者は積極的なコミュニケーションを目的とせず、特定の方向を向いて実施していることがわかる。また、三脚以上の配置だけを見ると、向かい合いの配置が最も多いことから、3 人以上で実施しているチェアリングはコミュニケーションや飲食を主な目的として実施している可能性が高くなると考えられる。次に使用されているアウトドアチェアの背もたれの有無を調べたところ、200 件中 195 件に背もたれがついていることから、ほとんどに背もたれがあり、楽な体勢でくつろぎかつ方向性があることがわかる。

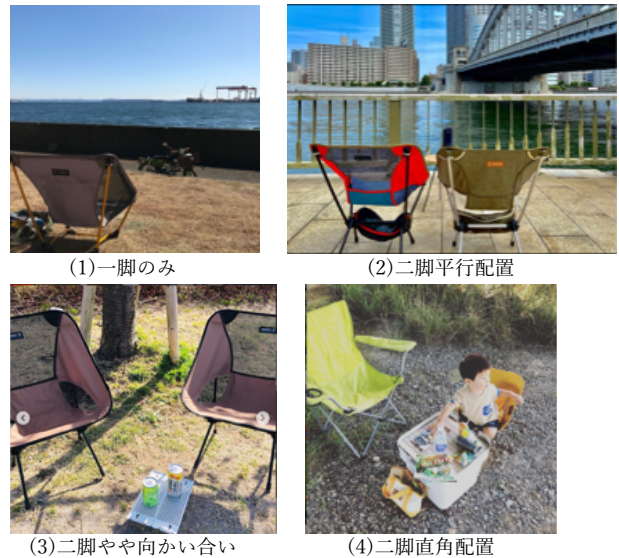


図 2 椅子の配置分類

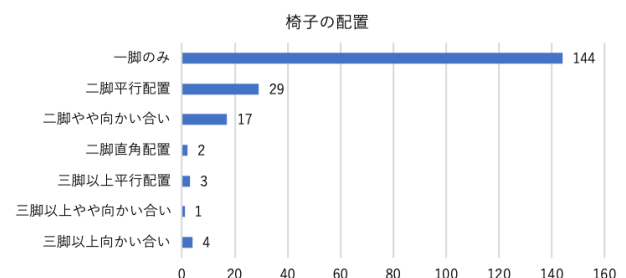


図 3 椅子の配置の分類

<p><u>手軽さ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたくなったらすぐにイスを持ち出してできる上、安価で非日常が手に入るのだ。 ・ハードルが低い割に体験効果の高い取り組みです。 ・勤のアクティビティと静のリラクゼーションを、軽量の椅子1つで楽しめる。 <p><u>景色が変わる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっと腰を据えて風景を見ていると、実は風景の中で、鳥が飛んでいくとか、空の色が変わっていく、とかいろいろなことが起きていることに気づく。 ・普段は意識しないような景色でも、視点が変わることで新たな魅力が発見できることに気づきました。 ・車が通り過ぎるのを車内で待ちながらポーッと過ごすのと、チェアリングしながら通り過ぎていくのを見送るのでは全く違う乗り物になる気がする。 ・ベンチよりも低く座るだけで視線が変わり世界が違って見える。 <p><u>パーソナルスペースを作る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外のどこでも好きな場所を自分のパーソナルスペースにできる痛快さ、快適さ。 ・なんでもないと思っていた場所が、イスを置くことで途端に特別な場所になる。 ・リビングをアウトソーシングするイメージ ・椅子があるだけでパーソナルなテリトリー感が出て居心地が良くなる。 	<p><u>その場をハッキングする</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の頃に秘密基地を作るようなワクワク感が蘇ってくる。 ・好きな場所に持参した椅子を設置するだけで自然を独り占め。 ・椅子を置いたら、もう、目の前はプライベートビーチ。 <p><u>都市を違う見方で見ると</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふといつもの街を眺めたら、そこはいつもの街ではなかった。 ・音、匂い、風景、温度など五感を使ってまちを体感することで、きつといつものまちが違って見えるだろう。 ・この大都市をふかんで観察できる素晴らしい機会。 ・よく知っているはずの街が、ちがう表情を見せてくれる <p><u>特別な時間</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たち以外の人が日常生活をしているなかで、自分だけが止まっているみたい。 ・忙しい日常生活の中では、ゆっくり自分に向き合う時間はありませんが、チェアリングは周りの風景や人に自分を投影して眺めることができるので、思考が深まるような気がします ・チェアリングしていると時間の感覚とか、物の考え方、食べ物の味とかが変わります。物事がゆったりとポジティブになっていくのがわかります。
---	---

図4 チェアリングの感想の分類

5. チェアリングの意味・感想の分析

チェアリングをすることの魅力をも明らかにするために、SNS・ウェブサイト・書籍から実施者の感想を抽出し分析し、以下の6種類に分類した。

(1) 手軽さ

キャンプのような大袈裟な準備を必要とせず、椅子ひとつ持ち出せば簡単に非日常を体感することができる。

(1) 景色が変わる

普段何気なく見ている景色も、椅子に座りながら見ることによっていつもとは違った景色に見え、街の新たな魅力が発見することができる。

(2) パーソナルスペース

椅子を置くだけでその場が自らのパーソナルスペースに変化し、リビングでくつろぐように屋外にいながらも自分の居場所を作ることができる。

(3) その場をハッキングする

自分自身で場所を選択し椅子を置くと、誰のものでもなかったその場所を独り占めしたような気分になる。

(4) 都市を違う見方で見ると

普段はただ通り過ぎるだけの街を、椅子に座ると違う視点で普段と違った街を見ることができる。

(5) 特別な時間

キャンプやピクニックとは違い、屋外に椅子を置いて座ることが目的のチェアリングは、特に何もしない時間が普段とは違う感情を生み出し、特別な時間を作ることができる。

以上の6種類はいずれもキャンプやピクニックとは違ったチェアリングの魅力であると言える。

6. 結論

・チェアリングにおける椅子の配置は一脚のみ、二脚平行配置が多く、チェアリング実施者は積極的なコミュニケーションを目的とせず、特定の方向を向いて実施している。

・使用しているアウトドアチェアのほとんどが背たれ付きであり、チェアリングの目的の1つとして楽な体勢でくつろぐということが含まれる。

・チェアリングの目的は手軽さ、景色が変わる、パーソナルスペースを作る、その場をハッキングする、都市を違う見方で見ると、特別な時間の6種類に分類でき、いずれもキャンプやピクニックとは違う魅力がある。

参考文献

- ・スズキナオ・パリッコ (2017)『椅子さえあればどこでも酒場 チェアリング入門』,日販アイ・ピー・エス株式会社
- ・鈴木毅:「人の居方からの環境デザイン 台北の公園の居方」,『建築技術』,1994年4月号
- ・笹尾和宏 (2019)『PULIC HACK 私的に自由にまちを使う』,学芸出版社
- ・ヤマザキ・マリ「揺るぎなく」,『婦人公論』2020-10-27
- ・たちばなえりこ."あなたの人生に「チェアリング」という選択肢を".note.2019-07-02.
- ・名喜山直哉."街をリビングにしてくつろぐ「チェアリング」必要なのは椅子ひとつ".excite ニュース.2017-11-23.
- ・ツマミ具依."新しい飲酒スタイル「チェアリング」。折りたたみイスで野外飲みしてみた.".bizSPA!フレッシュ.2018-08-09.
- ・「小藪千豊、ヤマザキマリ、都築響一が語る「イス呑み」の魅力とは?».NHK.2020-10-16